

令和6年度の学校経営について

厚岸町立厚岸小学校

1 はじめに

本校は開校145年目を迎えます。明治12年の「朝曦（ちょうぎ）学校」創立を前身とし、本町の伝統校として地域に愛されてきた学校です。直近では、平成29年度に「床潭小学校」が統合となり、教職員一丸となって教育活動に取り組んできています。また、平成30年度からはコミュニティ・スクール（湖南地区学校運営協議会の設置）が導入され、地域とともにある学校づくりをすすめています。

学校は複雑・多様化した課題を解決し、子どもに必要な資質・能力を育んでいくところです。私たちは地域の学校にきた「風の人」となりますが、自らの専門性や人間性、教育に対する情熱を高め、出会った職員と力を合わせながら、「厚小の教育」を展開していきたいと思えます。

本校の子ども達の現状を客観的に把握し、改善のための具体的方策を適宜模索し実践する。スピード感を持ち対応できる学校にしたいと考えています。

2 校訓

「 強く 正しく 美しく 」(昭和47年4月制定)

3 本校の教育目標

たくましい子（体） 自ら考える子（知） 心豊かな子（徳）

4 学校課題

(1) 本校の現状と課題

本校は厚岸大橋を渡った湖南地区に所在します。厚岸中学校が隣接し、近くには全道唯一の普通科と水産科（海洋資源科）を併設する厚岸翔洋高等学校があります。また、地区内に保育所と児童センターがあり、学校段階等間の連携を推進しています。

校区は湖南地区を中心に、学校の統合に伴い、床潭方面と筑紫恋・有明方面からも児童がスクールバスにより通学しています。また、徒歩通学範囲にあっても、自家用車で送り迎えする家庭は少なくありません。

児童数は、全校で99名（通常学級85名、特別支援学級14名）となり、ここ数年、減少傾向にあります。学級編成は、通常学級1クラスの児童が10名～20名程度で構成され、学年1クラス、少人数での編成となっています。特別支援学級は、知的学級、自閉症・情緒学級、言語学級が開設されています。

学校評価では、保護者の学校に対する信頼が高く、「学習レベルに応じた指導」「保護者の願いや相談への対応」「情報発信」などの項目で高い評価をいただいています。児童においては、

教師や友達との良好な関係が保たれ、「学校生活は楽しい」「子ども達のことを考えてくれる」などの項目で高い評価となり、学習を含め、楽しく学校生活を送っていることが伺えます。一方、早寝・早起きなどの基本的な生活習慣については、もう一步、保護者と児童の評価が高まることを目指したいと思います。

学力については、標準学力調査（国語、算数）の結果から全体的な学力の底上げが必要であることがわかりました。また、無解答率は高学年から増え、読解力不足については学年共通の課題です。一方、児童アンケートから、多くの児童は「先生の教え方はわかりやすい」という意識をもっています。また、どの学年の児童も、学習に真面目に取り組む姿勢が育っていることを感じます。日々の授業を核に、基礎・基本の定着には個人差があることを前提として、個々の学力を伸ばすことと、学び合う集団の形成に一層取り組むことが大切です。

体力については、種目別では、立ち幅跳びは男女とも全国平均値と同等か高く、50m走（スピード）とシャトルラン（持久力）に課題があり、学年が上がるにつれ柔軟性に課題が見られています。加えて、保護者の意識として「運動に興味をもって体力づくりに取り組んでいる」という回答はやや低めとなっています。場の設定を工夫しながら、児童が運動の特性に応じた楽しさを感じ、体力・運動能力の向上に進んで取り組めることを大切にしていきたいと思います。

健康・安全については、感染症の予防と拡大防止に努め、児童が正しい行動を取れるよう継続した取り組みをすすめています。また、日常の健康観察を行うほか、食物等のアレルギー対応を個別に継続していくことは欠かせません。安全面においては、津波等を想定した訓練を毎年計画的に実施し、児童もしっかりと行動できています。日常的・定期的な取組を継続することと、小中連携・地域連携での取組を検討していくことが大切です。

生徒指導に関わっては、丁寧にあいさつできる児童が多く、素直で大変穏やかです。また、気持ちが優しく、相手を思いやる心もよく育っています。一方、指示待ちで、主体的に行動を起こすことの弱さを感じています。加えて、コロナ禍教育活動の制限の影響によって、他者との関わりも薄くなりがちで、児童の心の成長に何らかの影響を及ぼしているのではないかと考えます。児童と教師、児童同士がつながっている中での安心感を築き、児童理解に基づく予防的な取組を進めていくことが求められます。

ふるさと・キャリア教育については、各学年で地域人材の活用や施設の利用など体験的な学習を展開しています。また、校区の湖南地区において、児童生徒による「三校合同クリーン大作戦」や教職員が参加する「湖南地区合同交流会」を開催しています。地域性を活かした教育活動は、児童のものの見方・考え方等を広げる機会となることや、厚岸の人づくり、まちづくりの上で重要な課題であるという認識に立ち、これからも大切にしていきたいと思います。

特別支援教育に関わっては、月組とひまわり組等の児童一人一人が生き生きと学ぶことができる支援に努めています。また、各学年の交流学习が計画的にすすめられています。校内指導体制としては、通級指導教室（ステップルーム）の開設するほか、児童支援員（1名）によるサポートを行っています。「小さな躓きにも、丁寧な応援を」という考え方を大切にし、特別な配慮を必要とする児童の学びを保障していきたいと思います。

家庭との連携については、学校だよりや学級通信などの発行に加え、安心・安全メールを使って各家庭に連絡できるようにしています。また、学級担任を中心に、電話連絡や連絡ノート等を使った双方向の連携を図るよう心がけています。本校の保護者は総じて協力的ですが、児

童のよりよい習慣づくりに向け、学校の取組に今以上に関心をもってもらい、家庭の教育力を向上させていく必要があります。

5 学校経営の方針

- 体を鍛え、心身ともに健全な子を育てる学校 …………… たくましい子 (体)
- 進んで学び、自らを伸ばそうとする子を育てる学校 …………… 自ら考える子 (知)
- 他を思いやり、感動する心をもつ子を育てる学校 …………… 心豊かな子 (徳)

6 学校経営の重点

重点目標：何事にもチャレンジ続ける元気でたくましくやさしい厚小の子

令和6年度学校スローガン：「自分に自信と誇りを」

本校生徒の知徳体を伸長させるためには、様々な領域より計画的・組織的に取り組んでいかなければなりません。また、昨年度の反省をもとに、課題を解決しようとしめない限り、停滞したまま教育活動は推移します。現状維持は後退と同じだと考えます。

また、本校児童は自己肯定感・自己有用感が不足していると我々は捉えています。自分に自信がなく、それが日常の行動にも顕著に表れているようです。失敗を恐れず何事にも立ち向かう姿勢を育成するためには、折れない心・立ち向かう勇気を持たせる必要があると考えます。

上記の子どもを育成するために、「知・徳・体」の視点では7つ、「学校運営の基盤」の視点では4つのアプローチをそれぞれお願いします。

【知・徳・体の育成のために】

(1) 学力の確実な定着<知>

各教科等の指導に当たって、知識及び技能の習得、これらを活用する力の育成など学力の確実な定着に努めます。また「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現します。

- ①「厚岸小学校のあたり前」チェックを行い、学習規律の定着に向けた指導の継続
- ②「見通す・振り返る」、「考える」場面を設定した学習活動
- ③タブレットなどのICT機器を利活用した効果的な取組
- ④通級指導担当者との調整を図り、全校的な指導体制を整備
- ⑤「家庭学習の手引き」をもとに、学年の発達段階にあった学習習慣づくり
- ⑥図書館司書と連携し、「心の糧、知識の源泉」となる読書環境づくり

(2) 校内研修の推進<知>

日常の教育実践と結び付け、教職員個々の授業力や職能の向上を図る校内研修の推進に努めます。

- ①新たな研修計画および目標を踏まえた授業実践

- ②道徳教育、特別支援教育、食物アレルギー、不審者対応等の研修を企画・実施
- ③各種研究会・研修会（オンライン含む）への積極的な参加と成果の還流

（３）特色ある教育課程の編成<知>

学習指導要領を踏まえ、知・徳・体にわたる「生きる力」を育む特色ある教育課程の編成に努めます。

- ①地域性や児童の実態、今日的な教育課題を踏まえた教育課程の編成・実施
- ②授業時数の管理及び余時数を活用した計画的な取組
- ③「総合的な学習の時間（３年生以上）」の年間指導計画の見直し継続・整備

（４）道徳教育の充実<徳>

特別の教科「道徳」を要とし、あらゆる教育活動を通じて、児童一人一人の道徳性の育成に努めます。

- ①児童が道徳的な課題を進んで考え、議論する授業実践
- ②保護者や地域の方々に、道徳の授業を積極的に公開
- ③言葉がけに気を配り、児童に寄り添いながら人としての成長を支援

（５）生徒指導の充実<徳>

日常の学校生活を通して、個性の伸長を図るとともに、自己実現の喜びを実感する生徒指導の充実に努めます。

- ①児童が意思決定（選択、決定）する場を設定し、責任をもって行動する経験を重ねる
- ②「厚岸小学校のあたり前」チェックを行い、校内外の約束を守る指導を継続
- ③いじめゼロを目指し、いじめの未然防止と早期発見・早期対応
- ④児童の悩みや抱えている問題の解決に向け、教育相談を効果的に実施

（６）ふるさと・キャリア教育の充実<徳>

地域への理解と愛情を深めるとともに、社会や職業とのつながりを感じながら、地域と関わろうとする児童を育てるために、ふるさと・キャリア教育の充実に努めSDG sにつなげます。

- ①地域の教育資源（人材、自然、教育施設など）を積極的に活用した学習
- ②自らの学習状況やキャリア形成を振り返る「キャリアパスポート」の取組
- ③アッペンソウ学習への協力（４年総合）
- ④弁天神社保存会との連携（６年総合）

（７）健康・安全指導<体>

健康で安全な生活を営む基礎となる健康・安全指導の充実に努めます。

- ①児童一人一人が健康と安全に留意し、進んで実践できるよう指導
- ②食育の推進や基礎体力の向上に向けた取組
- ③危機管理マニュアルの精査、日常的な点検活動や定期的な避難訓練の実施
- ④防災教育の充実（町合同避難訓練等）

【学校運営の基盤】

(1) 組織力の向上

教職員が目標を共有し、協働の意識をもって連携・協力する「チーム厚小」として、学校運営の活性化に努めます。

- ①教職員一人一人が役割を自覚し、分掌内・分掌間の連携を密にした協働的な運営
- ②学校改善に向けた学校評価とPDCAサイクルの確立
- ③ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を大切にするウェルビーイングな職場づくり
- ④働き方改革の推進と実行

(2) 学年・学級経営の充実

学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、学年・学級経営の充実に努めます。

- ①学級の教室環境を整え、整理整頓された潤いのある教室設営
- ②明るく、楽しく、支持的風土に満ちた学級づくり
- ③学年ブロックを中心とした協力体制の中で、統一性・系統性のある指導
- ④学校と家庭が協力しながら子どもを育てていくための保護者連携

(3) 特別支援教育の充実

特別な教育的支援を必要とする児童に対して、個のニーズに応じた特別支援教育の充実に努めます。

- ①月組における特別支援教育の視点を生かした工夫改善
- ②個別の指導計画を作成し、児童一人一人の特性に応じた指導を工夫
- ③たんぼぼ・ひまわり・あさがお組における指導体制の工夫や家庭との連携

(4) 異校種・地域連携の強化

中高やCSとの連携を強化し、地域を担う人材育成の目標などの共通理解と協働に努めます。

- ①湖南地区における学校段階間連携（目的や組織を含めた体制整備）
- ②小中連携（義務教育9年間を見据えた教育活動）
- ③コミュニティースクール（CS）との連携強化
- ④ESD（持続可能な開発のための教育）への取組